

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月
岩手大学

目 次

資料 1 - 1 - 1	岩手大学大学院連合農学研究科入学者の推移、 定員超過状況	・ ・ ・ 1
資料 1 - 1 - 2	岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表 （社会人カリキュラム）、 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則	・ ・ ・ 2
資料 1 - 1 - 3	岩手大学における特色ある教員養成系カリキュラム 、 新聞記事（岩手日報 平成 21 年 7 月 13 日（月）朝刊 19 面）、 カリキュラムアンケート調査結果報告書、 教職ポートフォリオ（抜粋）	・ ・ ・ 3
資料 1 - 2 - 4	工学部・工学研究科の教育の体系化	・ ・ ・ 4
資料 1 - 2 - 5	農学部・農学研究科の教育の体系化	・ ・ ・ 5
資料 3 - 1 - 6	工学部への黒沢尻工業高等学校専攻科の受入実績、 2010 年 3 月大学教育総合センター評価報告書（抜粋 14 頁）、 黒沢尻工業高等学校専攻科学生の授業受入についての 工学部評価（抜粋 2 頁）	・ ・ ・ 6
資料 3 - 1 - 7	ヤングリーダーズ国際研修 in いわて、 国際交流協定（大学間・部局間）に基づく交流実績調書 （大学間交流協定抜粋 11 頁）	・ ・ ・ 7
資料 3 - 1 - 8	学生交流協定校の短期留学（受入れ、派遣）実績、 ステップアップ・イングリッシュ、スーパーイングリッシュ 募集要項	・ ・ ・ 8

- 資料 3 - 1 - 9 日中韓国際産学官連携セミナーの開催（報告書表紙）、
技術移転活動 . . . 9
- 資料 3 - 1 -10 平成 20 年度、平成 21 年度国立大学 1 位国際ボランティア
参加者ランキング、
北東北国立 3 大学合同合宿研修、
国際週間イベント開催 . . . 10
- 資料 3 - 1 -11 プレースメント及びアチーブメントテストWeb ページ
. . . 11
- 資料 3 - 1 -12 外国人留学生向け就職支援講座、
岩手県企業訪問バスツアー【新規事業】、
いわて多文化子ども学習支援連絡協議会の開催
（平成 19 年度設置） . . . 12
- 資料 3 - 1 -13 いわて多文化子ども学習支援連絡協議会Web ページ
日本語学習支援ネットワーク会議Web ページ、
日本語学習支援ネットワーク事業 . . . 13

連合農学研究科の入学者の推移

年 度・入学月		入学 定員	入学者数		配 属 大 学 別							
					岩手大学		弘前大学		山形大学		帯広畜産大学	
平成 16 年度	4月	21	41	(10)	15	(1)	6	(1)	8	(1)	12	(7)
	10月		8	(2)	3	(0)	4	(2)	0	(0)	1	(0)
平成 17 年度	4月	21	42	(13)	20	(7)	7	(2)	2	(0)	13	(4)
	10月		5	(0)	1	(0)	1	(0)	1	(0)	2	(0)
平成 18 年度	4月	24	48	(16)	24	(7)	8	(1)	7	(4)	9	(4)
	10月		11	(2)	5	(0)	3	(1)	3	(1)	0	(0)
平成 19 年度	4月	24	36	(10)	16	(5)	8	(1)	3	(0)	9	(4)
	10月		8	(2)	5	(2)	1	(0)	1	(0)	1	(0)
平成 20 年度	4月	24	28	(4)	9	(2)	12	(2)	5	(0)	2	(0)
	10月		6	(4)	3	(1)	1	(1)	1	(1)	1	(1)
平成 21 年度	4月	32	28(13)〈10〉		7(5)〈 1〉		9(6)〈 1〉		3(0)〈 3〉		9(2)〈 5〉	
	10月		6(2)〈 3〉		3(2)〈 1〉		0(0)〈 0〉		1(0)〈 1〉		2(0)〈 1〉	
平成 22 年度	4月	32	21(8)〈 4〉		7(2)〈 2〉		4(2)〈 0〉		6(2)〈 2〉		4(2)〈 0〉	
計			790 (280)〈17〉		305 (113) 〈 4〉		164 (54) 〈 1〉		137 (47) 〈 6〉		184 (66) 〈 6〉	

【注】1. 外国人留学生は()内に、社会人特別選抜入学者は〈 〉内に内数で表記

2. 平成21年度から、社会人特別選抜を実施

連合農学研究科の定員超過状況

項目 年度	収容 定員 (A)	収容 数 (B)	左記の収容数のうち							超過率算定 の対象となる 在学者数 (J) 【(B)-(D,E,F, G,Iの合 計)】	定員超過率 (K) (J)／(A)× 100	
			外国人 留学生 数 (C)	左記の外国人留学生のうち				休学 者数 (G)	留年 者数 (H)			左記の留 年者数の うち、修 業年限を 超える在 籍期間が 2年以内 の者の数 (I)
				国費 留學生 数 (D)	外国政府 派遣 留學生 数(E)	大学間 交流協 定等に 基づく 留學生 等数 (F)						
平成16年度	(人) 61	(人) 141	(人) 42	(人) 20	(人) 3	(人) 0	(人) 6	(人) 31	(人) 23	(人) 89	(%) 146	
平成17年度	63	138	39	19	3	0	3	20	16	97	154	
平成18年度	66	154	42	24	0	0	5	16	11	114	173	
平成19年度	69	157	44	27	0	0	3	14	14	113	164	
平成20年度	72	153	36	17	0	0	4	19	18	114	158	
平成21年度	80	139	37	11	0	0	4	28	27	97	121	

岩手大学大学院連合農学研究科（博士課程）教育課程表 （社会人カリキュラム）

★短期集中型講義科目

（2010年4月現在）

専攻	科目名	単位数	講義方式	必修選択別	担当教員	履修予定年次		
						1年次	2年次	3年次
研究科共通	農学特別講義Ⅰ（英語）	1	遠隔	○	全国の連合農学研究科教員			
	農学特別講義Ⅱ（日本語）	1	遠隔		全国の連合農学研究科教員			
	生物生産科学特論	1	遠隔		各専攻資格教員			
	生物資源科学特論	1	遠隔		各専攻資格教員			
	生物環境科学特論	1	遠隔		各専攻資格教員			
	科学コミュニケーション	1	合宿	●	資格教員、修了生等			
	研究インターンシップ	2	訪問	○	研究機関等の研究員			
	科学英語B	1	対面		外国人教員			
	国際学会コミュニケーション	1	訪問	○	主指導教員			
	実践統計学	1	遠隔		資格教員・外部講師			
生物生産科学	社会人特別演習	1	職場		主指導教員			
	生物生産科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員			
生物資源科学	生物生産科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員			
	生物資源科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員			
生物環境科学	生物資源科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員			
	寒冷圏生命システム学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員			
寒冷圏生命システム学	寒冷圏生命システム学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員			
	生物環境科学特別演習	1	対面	●	主・副指導教員			
生物環境科学	生物環境科学特別研究	6	対面	●	主・副指導教員			

注1) この教育課程表は、社会人特別選抜入学者の教育課程表（社会人カリキュラム）です。
 注2) 遠隔：多地点制御遠隔講義システムによる講義・演習。 訪問：研修先、国際学会開催地等への訪問。
 対面：教員によるマンツーマン指導。合宿：合宿形式の講義・演習。教室：教室での授業。
 注3) 受講予定年次は目安を示したもので、指導教員と相談した上で適宜変更できます。
 注4) 他の研究科（工学研究科、各構成大学修士課程）の科目での代替可能単位数は2単位。
 注5) ●：必修科目、◎：履修を強く勧める選択科目、○：選択科目

岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則

（平成16年4月1日制定）

（趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第46条第2項及び国立大学法人岩手大学大学院学則第19条第2項の規定に基づき、長期にわたる教育課程の履修（以下「長期履修」という。）に関し必要な事項を定める。

（対象学生）

第2条 長期履修の希望を申し出ることのできる者は、学部在学する学生（農学部獣医学課程に在学する者を除く。以下次条において同じ。）及び大学院研究科に在学する学生のうち、職業を有しているなどの状況にある者とする。

（長期在学期間）

第3条 修業年限又は標準修業年限を超えて計画的に教育課程を履修して卒業又は課程を修了する場合の在学を認める期間（「長期在学期間」という。）は、学部在学する学生にあっては6年以内、大学院研究科修士課程及び博士前期課程に在学する学生にあっては4年以内、大学院研究科博士後期課程及び博士課程に在学する学生にあっては5年以内とする。

（長期履修の許可等）

第4条 長期履修を希望する者は、新たに入学する者にあつては入学手続時に、在学中の者にあつては2月末日までに学長に申請しなければならない。

2 学長は、前項の申請をした者について各学部教授会又は各研究科教授会の議に基づき長期履修を許可する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年10月1日から施行する。

附 則

1 この規則は、平成20年3月6日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

2 この規則の規定にかかわらず、農学部獣医学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、第2条中「農学部獣医学課程」とあるのは、「農学部獣医学科又は農学部獣医学課程」と読み替えるものとする。

岩手大学における特色ある教員養成系カリキュラム

1. カンファレンスの導入、模擬授業の推進による実践的力量的形成
・「教科の指導法」の充実 (現行 6 単位から 8 単位に拡充)
・「小学校実践研究」新設 (カンファレンスの導入、模擬授業の推進)
2. 科目取得条件の充実化による資質能力の向上
・教職専門科目 (最低必要単位数に 11 単位上乗せ)
・教科専門科目 (小学校教育専修) (最低必要単位数に 5 単位上乗せ)
・所属専門科目 (小学校教育専修) (専門講義を 14 単位以上取得)
・全学共通教育科目 (履修条件の整備)
3. 新規科目開講による現代的教育課題、地域教育課題への対応
・※「特別支援教育」開講 (LD、ADHD 等発達障害児支援への対応)
・※「小規模学校教育論」開講 (小規模学校、複式学級指導への対応)
・※「小学校の英語教育入門」開講 (小学校英語教育への対応)
・※「総合学習実践研究」開講 (「総合的な学習の時間」指導への対応)
・※「教職実践演習」開講 (教員としての資質能力の形成と確認)
4. 教育実習、実地体験等の充実
・4 年一貫教育実習システムの構築 (2 年次※「学校体験実習」の開設)
・実地体験 (学生派遣事業) の充実化 (火曜日午後の活用による実地体験の充実化)
5. 地域との連携の中での教員養成
・実地体験の推進 ・地域教育実習の推進 ・現職教員研修会の開催等
6. グローバルな視点に立った教員養成
・諸外国の教育文化の理解と教育現場の見学実習
・海外での自主的教育実習の単位化
・教員研修留学生対象のスクールインターンシップ実施
・日本語教員養成機能の充実

※平成 20 年度、平成 21 年度に新たに開講した科目

カリキュラムアンケート調査結果報告書

岩手大学教育学部の教員養成カリキュラム に関するアンケート調査結果報告書	
（報告書の内容構成） はじめに 1 1. アンケート調査の経緯 1 2. 第一調査の結果概要について 2 3. 第二調査の結果概要について 7 おわりに 18 アンケート調査資料	
岩手大学教育学部 教員養成カリキュラム開発推進委員会 平成 22 年 2 月	

新聞記事 岩手日報 H21/7/13 (月) 朝刊 19 面

教員目指し 640 人挑む
千歳県教育庁と川崎市教委、両機関が連携し、本年度の採用試験に備える。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。

千歳県教育庁と川崎市教委、両機関が連携し、本年度の採用試験に備える。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。

千歳県教育庁と川崎市教委、両機関が連携し、本年度の採用試験に備える。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。本年度の採用試験は、7 月 12 日（日）に川崎市教委で実施される。

千葉県教育庁主催
千葉県公立学校教員採用試験
平成 21 年 7 月 12 日 (日)
岩手大会会場

教職ポートフォリオ (抜粋)

Contents	
1. 教職実践演習の趣旨と目的	
2. 教員として求められる資質	
3. 教職指導の概要	
(1) 教職関係科目等の分類	
(2) 教員免許取得要件	
(3) 各学年の教職指導の概要	
4. 教職についての学習履歴	
(1) 履修履歴	
(2) 教職ポートフォリオ	
(3) 自己課題シート	
5. 個別教職指導	
6. 教職実践演習の内容	

教職ポートフォリオ

年 月 日	学習機会	教員資質
テーマ		
問題意識		
学習内容等		
意見		

工学部・工学研究科の教育の体系化

教育内容（ソフトパス・エンジニアリング科目）

○工学部の教育目標であるソフトパス・エンジニアリング（持続可能な「知識基盤社会」の発展に寄与する創造性に富み国際性豊かな人材の育成と人間や環境に優しい工学）を実現するために、学士課程－博士前期課程－博士後期課程において系統的な教育を行う。

(1) 学士課程

- ・ 共通科目：化学生命ソフトパス工学通論、マテリアルソフトパス工学通論、電気電子ソフトパス工学通論、情報システムソフトパス工学通論、機械システムソフトパス工学通論、社会環境ソフトパス工学通論
- ・ 専門科目：応用化学・生命工学科…環境化学
マテリアル工学科…エコ材料学
電気電子・情報システム工学科
電気電子工学コース…電力システム工学
情報システム工学コース…ヒューマンインターフェース
機械システム工学科…技術者倫理
社会環境工学科…水環境工学

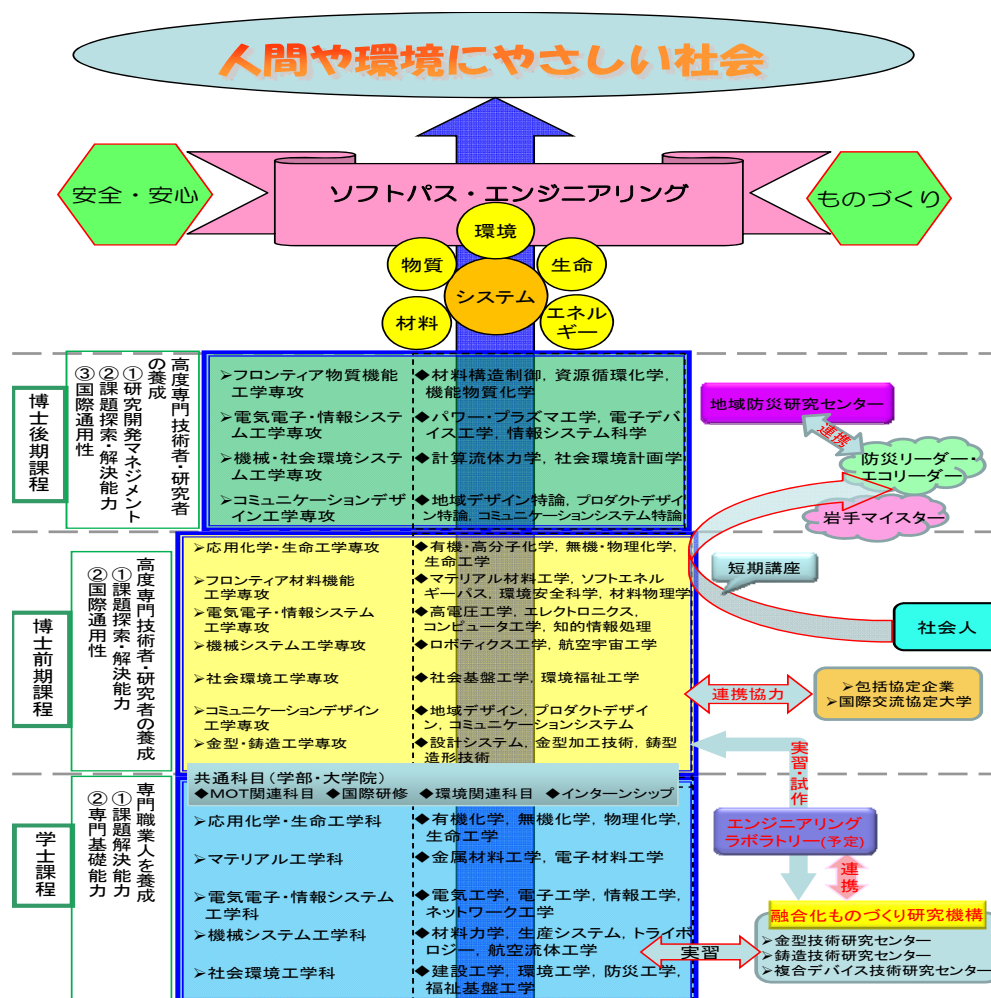
(2) 博士前期課程

<研究科共通科目>

知的財産権特論、ベンチャー企業論、研究マネジメント論、工業倫理特論、工業デザイン特論、ソフトパス・エンジニアリング特論、実践品質管理、科学英語特論（Ⅰ・Ⅱ、平成22年度から実施）

(3) 博士後期課程

専門教育の中核となる博士前期課程を受け、後期課程では4専攻を設置し、創造力の豊かな優れた研究開発力を持ち、産学官を通じたあらゆる研究機関の中核を担う研究者や高度な教育能力を備えた大学教員を養成する。



学士課程－博士前期課程－博士後期課程の系統的な教育

農学部・農学研究科の教育の体系化

教育内容

(1) 学士課程

「環境」、「生命」、「生物資源」をキーワードに学部の専門性を生かした多様なコースカリキュラムの策定を掲げ、平成 19 年度より従来の 3 学科体制（農業生命科学科、農林環境科学科、獣医学科）を 5 課程制（農学生命課程、応用生物化学課程、共生環境課程、動物科学課程、獣医学課程）に改組し、教育・研究と教員の所属が一体となった組織を越えて、それぞれの課程が境界領域部分を共有し、総合科学的な農学の特徴を活かした教育を行う。更に持続的な発展を可能とする総合的な人間社会の形成を目指し、地域に根ざした、実学のエデュケーションを基礎とし、技術者、研究者の養成を行う。

(2) 修士課程

学部課程に対応した教育研究体制並びに博士後期課程で取り入れた教育方法の良さを早期（修士課程改組：平成 23 年度予定のところを 2 年前倒し）に導入・整備

・高度専門職業人養成プログラム

公務員、企業、団体職員等の高度な専門的知識&技術に基づく業種で活躍するために必要とされる知識・スキル・思考能力・行動能力等を習得できる履修プログラムの提供。HACCP プログラム、アグリビジネススクール等の岩手大学農学部の特色を生かした履修プログラム。

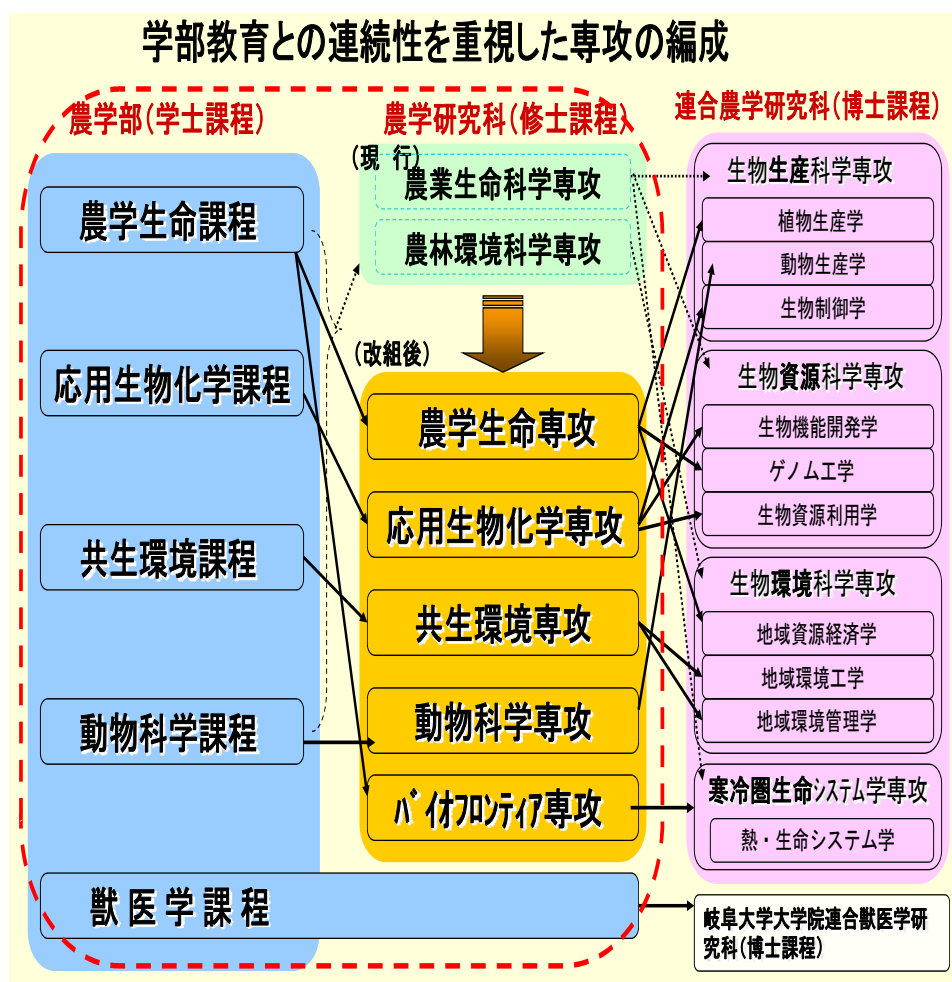
・研究者養成プログラム

大学院博士課程に進学し、将来、研究者等として活躍するために必要とされる知識・スキル・思考能力・行動能力等を習得できる履修プログラムの提供。

・カリキュラム編成：

基礎科目群：各専攻基礎科目、研究企画デザイン演習、研究推進演習、科学技術英語（中級・上級）、ベンチャー企業論、インターンシップ

専門科目群：各専攻の専門科目（研究教育重点授業科目及び高度専門教育重点授業科目）及び修士特別研究



工学部への黒沢尻工業高等学校専攻科の受入実績

年 度		受講者	開講科目	
平成 19 年度	前期	12 名	5 科目	生産加工学、機械要素設計学、電気電子工学通論、電子デバイス工学、情報工学概論
	後期	12 名	5 科目	材料工学概論、機械材料学、機械加工学、電気回路、電子回路
平成 20 年度	前期	8 名	4 科目	生産加工学、機械要素設計学、電気電子工学通論、情報工学概論
	後期	8 名	4 科目	機械加工学、機械材料学、半導体材料学、電機回路
平成 21 年度	前期	12 名	4 科目	生産加工学、機械設計学、電気電子工学通論、情報工学基礎論
	後期	12 名	4 科目	機械加工学、機械材料学、半導体材料学、電気化学

2010年3月 大学教育総合センター評価報告書（抜粋 14頁）

(3) 業務 3 高大の円滑な連携を図る

取組①「ウインターセッション等の高大連携事業の実施」の目標は、ウインターセッション等の実施により、高大の円滑な接続を図る」ことである。この取組では、ウインターセッションの継続実施や、高校生の大学講義への出席や高校教員による理系支援講座の開設などの取組を行ってきた。これにより、高校生の大学教育へ触れる機会を増やしてきている点で、自己評価は「おおむね良好」である。

黒沢尻工業高等学校専攻科学生の授業受入についての工学部の評価（抜粋 2頁）

平成22年2月22日

工学部教務委員長 藤代博之

4. 今後に向けた改善点や実施についての意見

- ・大学の授業を体験させることはよい。また、試験が出来なくても本人たちがその理由を理解していると思うので現状で問題ないと考えている。(機)
 - ・一般学生とのバランスをとるのが難しい。(機)
 - ・大教室での授業なので、授業中こちらから聞いても反応小さい。(機)
 - ・専攻科の良いところは少人数教育ができることと思うが、大教室での授業なので、この点が今後の課題である。(機)
 - ・講義内容に大きく依存すると思うが、個人的には特に黒沢尻工業専攻科学生がいるという
- ことで、授業内容を変更することはしていない。よって、特別負担に感じることはない。黒沢尻工業専攻科のほうで成果が挙げられているのであれば継続してもよいのではと思う。(電)
- ・期末試験が不合格なら岩大生には結果のフィードバックができるが、彼らにはできず、ほったらかしとなるが、致し方ない。また、電電情報の1 年次前期はコース分け前で元々受講者数が多く、特別には手がまわりかねる。(電)
 - ・難しい講義を退屈して聴いているのは苦痛だと思うが、受講生がいろいろな意味で価値を見いだしているなら継続して実施した方がよい。(電)
 - ・大学生と同じ試験内容では、どの程度分かっているか判断できない。教員側の負担になるが、専攻科学生のための優しい試験を作って実施した方が教育効果が上がると考える。(電)

(2) 総括

平成19年度から実施している黒沢尻工業高等学校専攻科学生の講義の聴講について、担当教員の感想、意見、要望を参考に、これまでの実施について工学部側としてまとめる。

1. 講義への取り組みや理解度については、授業態度はまじめで熱心に取り組んでいると評価できる。科目により難易度に差があり、理解が必ずしも十分と言えない科目がある。特に電気コースではその傾向が強い。しかし、機械コースは基礎知識の不足はあるものの、ある程度の理解は出来ていると認識している。
2. 試験結果については、大学生と同一の試験を行うと点数は低い、全く歯が立たないわけではない。19年度に比べて、3年目となる今年は、理解力が向上しているようだ。これは専攻科での指導の効果が現れていると考えられる。教員側の負担になるが、専攻科学生のための優しい試験を作って実施した方が教育効果が上がるなどの改善を検討したい。
3. 成績報告方法については、点数での報告などの方法の統一や、成績結果だけではなく試験問題、答案を専攻科に返すなど、より良い成績報告方法について両方で検討する必要がある。
4. 今後に向けた改善点や実施については、専攻科の学生に大学の授業を体験させることは有意義なことで、たとえ試験の成績が低くても、担当している多くの教員は受講すること、今後継続することに問題はないと考えている。実施面でのいくつかの検討を重ね、改善を行うことでさらに実質的な高大連携が実施されたいと考える。

ヤングリーダーズ国際研修 in いわて

目 的

1. 国境を越えて若いリーダーの間にネットワークを構築し、信頼と友情を育む。
2. 持続可能な社会について主体的に行動する知識と態度を養成する。

年度	項目	開催日	参加者数	参加者の出身国名	場 所
平成20年度		平成21年 2月18日～ 2月27日	15名	中国、韓国、タイ	国立岩手山青少年 交流の家
			11名	日本	
平成21年度		平成21年 8月26日～ 9月5日	13名	中国、韓国、タイ、 アイスランド	国立岩手山青少年 交流の家
			12名	日本	

国際交流協定（大学間・部局間）に基づく交流実績調書（大学間交流協定抜粋 11頁）

注：「教員・研究者の交流」、「学生・留学生等の交流」及び「事務職員の交流」項目は交流人数を示している。

協定大学名 (責任部局)	実施年度	交流事項	交流実績回数	具 体 的 な 交 流 内 容
中国 大連理工大学 (教・工・地セン) 【学術】	平成19年度 【派遣分】	教員・研究者の交流	国・地11 工9 農1	UURRプロジェクト 10月大連理工大学へのUURR交流ミッション派遣、3月鑄造技術移転ミッション派遣のほか、研究者交流（派遣）2回を実施。
		学生・留学生等の交流		
		事務職員の交流	国2	UURRプロジェクト 10月大連理工大学へのUURR交流ミッション派遣、3月鑄造技術移転ミッション派遣を実施。
		学術資料及び刊行物の交換	国・地	UURRプロジェクト 活動報告書作成
		共同研究及び国際研究集会の実施	国・地	UURRプロジェクト 大連企業への技術移転（鑄造）について合意。大連企業との共同研究（IT）の可能性について協議。 UURRプロジェクト 6月韓国ソウルでの「日韓中産業交流会（ソウル）」に出展。同会場において、大連理工大学、韓国国立ハンパット大学校との3大学セミナーを開催。
	平成19年度 【受入分】	教員・研究者の交流	国4	UURRプロジェクト 3月大連理工大学 校長助理ほか3名の訪問団を受入れ、向大学の交流について協議。
		学生・留学生等の交流	工2	UURRプロジェクト 12月大連理工大学材料学院学生2名の岩手大学工学部での短期学生交流を実施。
		事務職員の交流		
		学術資料及び刊行物の交換		
		共同研究及び国際研究集会の実施		
	平成20年度 【派遣分】	教員・研究者の交流	工6 国・地6	工：本学 教授（副工学部長）が11月9日から4日間訪問。11月11日に工学部と化工学院との間で学生交流覚書を締結。 国： 新学長の就任に伴う表敬訪問を行った（H20.9） UURRプロジェクト 11月大連理工大学へのUURR交流ミッション派遣、研究者交流（派遣）1回
		学生・留学生等の交流		
		事務職員の交流	国5	国： 新学長の就任に伴う表敬訪問を行った（H20.9） UURRプロジェクト 11月大連理工大学へのUURR交流ミッション派遣、研究者交流（派遣）1回
		学術資料及び刊行物の交換	国・地	UURRプロジェクト 活動報告書作成
		共同研究及び国際研究集会の実施	国・地	UURRプロジェクト 客員教授の鑄造技術に関するノウハウライセンス及び共同開発契約締結（大連理工大学・大連四達鑄造有限公司・岩手大学）。 教授のIT技術に関する共同研究秘密保持契約締結（大連理工大学・大連泰康科技有限公司・岩手大学）
	平成20年度 【受入分】	教員・研究者の交流	工2 国5	本学 教授と 准教授との共同研究の情報収集のため、 副教授（化工学院）と 副教授（化工学院）が4月22日から4日間訪問。4月24日、盛岡市産学官連携研究センター中会議室にて「大連理工大学・岩手大学学術交流協定による電気化学シンポジウム」を開催（教員・学生・一般40名参加）。 UURRプロジェクト 6月「日韓中産業交流会（大阪）」において大連理工大学、韓国国立ハンパット大学校との共同ブースで各大学の技術シーズを紹介。 6月岩手大学において、「UURR国際産学官連携セミナー」を開催（大連理工大学、韓国国立ハンパット大学校ほか、日韓中の産学官関係者参加）。
		学生・留学生等の交流		
		事務職員の交流		
		学術資料及び刊行物の交換	国・地	UURRプロジェクト 「UURR国際産学官連携セミナー」報告書
		共同研究及び国際研究集会の実施	国・地	UURRプロジェクト 6月「日韓中産業交流会（大阪）」において大連理工大学、韓国国立ハンパット大学校との共同ブースで各大学の技術シーズを紹介。 6月岩手大学において、「UURR国際産学官連携セミナー」を開催（大連理工大学、韓国国立ハンパット大学校ほか、日韓中の産学官関係者参加）。

学生交流協定校の短期留学（受入れ・派遣）実績

年度	学部等	受入れ	所 属 大 学	受入れ 数計	派遣	派 遣 大 学	派遣数計
2004 H16	人文社会科学部	1	ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学	5	3	ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学(2名) 韓国:明知大学校	7
	教育学部	3	中国:寧波大学(2名)		3	アメリカ:ノースセントラルカレッジ(2名)	
	農学部	1	中国:吉林農業大学		1	中国:吉林農業大学	
2005 H17	人文社会科学部	3	ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学 韓国:明知大学校(2名)	10	4	アメリカ:テキサス大学オースティン校 カナダ:セントメアリーズ大学(2名) 大韓民国:明知大学校	8
	教育学部	5	中国:清華大学 中国:曲阜師範大学 中国:寧波大学(3名)		4	中国:清華大学 中国:寧波大学 アメリカ:テキサス大学オースティン校 大韓民国:明知大学校	
	国際交流センター	2	アメリカ:テキサス大学オースティン校(2名)				
2006 H18	人文社会科学部	3	ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学 韓国:明知大学校(2名)	11	2	アメリカ:テキサス大学オースティン校 ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学	7
	教育学部	5	中国:寧波大学(3名) アメリカ:ノースセントラルカレッジ 中国:清華大学		4	中国:清華大学(2名) アメリカ:ノースセントラルカレッジ(2名)	
	農学部	2	中国:吉林農業大学(2名)		1	中国:吉林農業大学	
	国際交流センター	1	アメリカ:テキサス大学オースティン校				
2007 H19	人文社会科学部	5	ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学 韓国:明知大学校(2名) フランス:ボルドー第三大学(2名)	12	6	ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学(3名) フランス:ボルドー第三大学(3名)	11
	教育学部	5	中国:寧波大学(3名) 中国:清華大学 中国:曲阜師範大学		3	中国:清華大学(2名) アメリカ:ノースセントラルカレッジ	
	国際交流センター	2	アメリカ:テキサス大学オースティン校(2名)		2	アメリカ:アーラム大学 カナダ:セントメアリーズ大学	
2008 H20	人文社会科学部	6	韓国:明知大学(2名) ※1名 ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学 フランス:ボルドー第三大学(3名) ※2名	17 (8名奨 学金 枠:内 数)	5	フランス:ボルドー第三大学(3名) 中国:寧波大学 韓国:明知大学	11
	教育学部	10	中国:寧波大学(4名) ※2名 中国:清華大学 ※1名 アメリカ:ノースセントラルカレッジ(2名) ※1名 中国:曲阜師範大学(2名) 中国:山東工芸美術学院		5	中国:寧波大学(2名) 中国:清華大学 中国:曲阜師範大学 アメリカ:ノースセントラルカレッジ	
	農学部	1	中国:吉林農業大学 ※1名		1	中国:吉林農業大学	
2009 H21	人文社会科学部	6	韓国:明知大学(2名) ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学 ※1名 フランス:ボルドー第三大学(3名) ※1名	24 (9名奨 学金 枠:内 数)	7	フランス:ボルドー第三大学(4名) ロシア:サンクトペテルブルク国立文化芸術大学 アメリカ:アーラム大学 韓国:明知大学	9
	教育学部	12	中国:寧波大学(4名) ※1名 イタリア:カララ大学(3名) ※1名 中国:清華大学 ※1名 中国:曲阜師範大学(2名) ※1名 中国:山東工芸美術学院 ※1名 アメリカ:ノースセントラルカレッジ ※1名		2	アメリカ:ノースセントラルカレッジ 韓国:明知大学	
	工学部	3	中国:新疆農業大学 中国:大連理工大学(2名)				
	農学部	1	中国:吉林農業大学 ※1名				
	国際交流センター	2	アメリカ:テキサス大学オースティン校(2名)				

※短期留学プログラムの奨学金枠での受入れ数:内数表示

ステップアップ・イングリッシュ、
スーパー・イングリッシュ 募集要項

ウェブサイト: <http://luic.iwate-u.ac.jp> で詳細がわかります

Step-Up English

Step 1

プログラムの期間: 2009年10月5日～12月21日
開講日と時間: 週2回(月・水) 18:20-19:50
募集人員: 12名
受講資格: ①何れ海外への留学・インターンシップ、研修を希望する者、②CAJECを受験し700点以上のスコアを出せた者、③②の両方の条件を満たす希望者から優先的に受講を認める。余力がある場合には③のみの条件で申込みも認める場合がある。

★コースの内容について★
海外留学に必要なアカデミック英語の基礎力をつけるためのリーディング・リスニングです。授業はESLを専門とするネイティブの先生が担当し、語彙練習、読解力強化練習、決められたテーマについて制限時間内で英作文練習、ディクテーション練習、質問の応答構成基礎と、そのほか多岐にわたる練習を行います。また、リーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4技能を総合的に鍛錬します。総合的な英語力をつけて、Super Englishへの挑戦を目指します。

受講生募集 1
申込締切は
9月6日(金)

終了後は...

SUPER ENGLISH

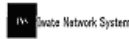
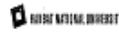
Step 2

プログラムの期間: 10月7日～12月18日
開講日と時間: 週2回(水・金) 18:20-19:50
募集人員: 5名 受講資格: ①以前にSuper Englishを受講したことがあり積極参加が認められた者、②Step-Up Englishの終了者で推薦された者、③②どちらかに該当する者で、課題をこなす、出席せずに積極的に受講する意欲があると

★コースの内容について★
英語圏への留学にはTOEFL、IELTで90点(リーディングで50点程度)の英語力が必要とされます。留学先で単位を取得して帰国するためには、それだけの英語力が必要となります。そこで、このプログラムでは実際にTOEFLで出題される長文や作文課題、リスニングの設問問題などを使用し、効果的な問題を多く解きながら90点を目標とします。

お問い合わせ先: 国際交流センター
担当: 阪中 真由美 emaki@iwate-u.ac.jp

日中韓国際産学官連携セミナーの開催（報告書表紙）
 （岩手大学、中国大連理工大学、韓国ハンバット大学）

平成 20 年度日中韓産学交流事業報告書     UURR 国際産学官連携セミナー 報告書 <i>Report on UURR International Industry-University Collaboration Seminar</i> — 付：2008 日中韓産学交流会報告書 — 日 時：2008 年 6 月 21 日（土） 13:00～18:00 会 場：盛岡市産学官連携研究センター（コラボ M1U）1 階大会議室 主 催：国立大学法人 岩手大学 共 催：中華人民共和国 大連理工大学、大韓民国 国立 HANGAT 大学校、 岩手ネットワークシステム（INS） 後 援：岩手県、盛岡市、 日本貿易振興機構（JETRO）盛岡貿易情報センター 国立大学法人 岩手大学 UURR プロジェクトチーム 岩手大学・大連理工大学国際連携・技術移転室	平成 21 年度 UURR 国際交流支援事業「日中韓 3 大学交流事業」    日中韓大学国際産学官連携セミナー 報告書 <i>Report on the International Seminar of Industry-University-Government Cooperation of Chinese, Japanese and Korean Universities</i> — 同日開催 日中韓 3 大学産学官連携セミナー — 付：実務者会議（2010 年 3 月韓国）報告 テーマ：交流・発展（Communication・Development） 開催日：2009 年 5 月 21 日（木） 会 場：大連理工大学 図書館 主 催：岩手大学、中華人民共和国 大連理工大学、大韓民国国立 HANGAT 大学校 国立大学法人 岩手大学 UURR プロジェクトチーム
--	---

技術移転活動

締結年月日	契約形態	研究代表者	共同研究機関
2008.11.11	技術移転契約	客員教授	
2008.11.11	共同開発に関する秘密保持契約	教授	
2009.5.21	共同開発契約	教授	

（平成 20 年度岩手大学 UURR プロジェクト報告書 P 3 及び平成 21 年度岩手大学 UURR プロジェクト報告 P 6 から抜粋）

平成20年度、平成21年度 国立大学1位
国際ボランティア参加者ランキング

この部分は著作権の関係
で掲載できません。

この部分は著作権の関係
で掲載できません。

北東北国立3大学合同合宿研修会

北東北3大学外国人留学生合同合宿研修会
参加者募集

北東北国立3大学に所属する留学生と日本人学生が、合同合宿研修を通じて
交流を深め、多文化状況で課題に取り組み、コミュニケーション能力を高めます。
3大学のいろいろな学生たちと知り合うチャンスです。ぜひ、参加してください。

日 時： 2009年11月21日（土）～23日（月） （3日間）

場 所： あきた白神体験センター

〒018-2617 秋田県山本郡八峰町八森字御所の台53-1
TEL 0185-77-4455 FAX 0185-77-4456

<http://www.town.happou.akita.jp/taiken/index.html>

参加費： 無料！（大学から支給されます）

準備するもの： 着替え 上履き（運動靴等）
洗面道具（タオルを忘れずに！）
健康保険証（コピー可）
バジャマ・筆記用具（特に紙用のハサミ）等
簡単な雨具（海コース、山コース希望者のみ）

国際週間イベント開催

Iwate University International Week
開催のお知らせ

岩手大学では、10月下旬～11月初旬を「国際週間-Iwate University International Week」とし、海外留学・派遣プログラムの体験発表や国際理解力増進のための講演会等のイベントを集中的に開催します。魅力いっぱいの各イベントには是非ご参加ください！

開催予定イベント

- 10月29日（木） 青年海外協力隊募集説明会
（16:30～：学生センターG18教室）
- 10月31日（土）～11月6日（金）
海外派遣・国際交流プログラム参加体験展示会
（毎日9:00～17:00：図書館1階アザリアギャラリー）
- 11月5日（木） ★English Café （16:30～：学生センターG41教室）
- 11月6日（金） がんちゃん国際フォーラム
「数字から考えるグローバル化の中の国際理解
ーバングラデシュを事例としてー」
（14:45～：図書館2階生涯学習・多目的学習室）
- 「外国語学習の科学」講演会
（17:00～：学生センターG2大教室）
- 11月9日（月） 「学ばれる日本語ーアメリカの事例から」講演会
（16:30～：学生センターG41教室）



※★印のプログラムは岩手大学の学生のみを対象としたプログラム
です。他のプログラムについては、教職員や一般の方も参加できます。
※海外派遣・国際交流プログラム参加体験報告の一部は、
10月24日（土）～25日（日）開催の「不來方祭」においても紹介します。
（場所：学生センターG4F演習室）

プレースメント及びアチーブメントテスト Web ページ

Web
トップページテスト
トップページ

問題例

1. 外国人留学生向け就職支援講座

開催日	参加者数	内 容
平成20年10月18日(土)・19日(日)	16名	企業の求める人材、応募書類対策、面接対策等
平成21年1月17日(土)・18日(日)	10名	ビジネスマナー講座、面接対策講座等
平成21年9月26日(土)・27日(日)	9名	日本の企業について、面接対策等
平成21年12月5日(土)・6日(日)	8名	留学生の就職の現状、面接対策等

主催 岩手県外国人留学生就職支援協議会

2. 岩手県内企業訪問バスツアー【新規事業】

平成21年11月26日(木) 訪問先：(株)新興製作所、(株)あさ開き

3. いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会の開催(平成19年度設置)

平成20年7月2日(水)、平成21年6月2日(火)

教育機関、研究者、教育現場、教育支援者等がネットワークを構築し、岩手県内に在住する移民的背景を有する子どもの就学、学習、進路等に関する課題について、解決を図り、各年度の事業計画等について協議し、研修会等を実施した。

学習支援者研修会

いわて多文化子どもの学習支援者研修会09

岩手県内にはここ数年、外国出身、あるいは保護者が外国出身者の子どもたちが増えています。日本語もわからない、日本の学校についても何も知らないで、いきなり学校で日本人の子どもたちが学校生活を送るのはとても困難です。このような子どもたちに対する日本語習得支援、学習支援の方法、内容等について一緒に考えてみませんか。この研修会では、経験豊かな講師による情報提供、ワークショップ等を通じ、学校教員、ボランティアなど、関係者の皆さんのネットワークを広げ、これからの子どもたちの学習指導、支援活動に役立つ情報を提供します。

日 時 2010年1月8日(金) 10:00-16:30

場 所 岩手大学学生センター G41教室

参加料

プログラム

- ◎10:00-11:30 基調講演
『外国人児童生徒の学習支援の現状・課題と展望』
愛知淑徳大学・愛知教育大学講師 松本一子氏
- ◎12:30-14:30 ワークショップ
『就学支援ハンドブック』『いわて多文化子どもの学習支援ハンドブック』を使った指導、支援方法の検討
進行：岩手大学国際交流センター 松岡洋子
- ◎14:45-16:00 意見交換(ラウンドテーブル) 参加者によるグループ別意見交換会
- ◎16:10-16:30 総括 各ラウンドテーブルからの報告、まとめ

※参加申し込みはお名前、ご所属、連絡先(電話・メールアドレス)を電子メール、またはFAXで 2010年1月5日(火) までにお送りくださるようお願いいたします。

主 催：岩手大学国際交流センター
後 援：いわて多文化子どもの学習支援連絡協議会
岩手県教育委員会
盛岡市教育委員会
(財)岩手県国際交流協会

お申し込み・お問い合わせ先：
岩手大学国際交流センター 松岡洋子
FAX 019-621-6867
e-mail: yokomai@iwa-te.ac.jp

多文化こども合宿

多文化こども合宿

～岩大生と勉強しよう!遊ぼう!～

外国から岩手にやってきた小学生、中学生、高校生の皆さん!

岩手大学の学生といっしょに、日本語の勉強や学校の宿題をしませんか?

学生たちがみなさんの勉強のお手伝いをする合宿をします。

夜にはゲームやおしゃべりなどの交流会もします。ぜひ、参加してください!

日 時：2009年11月28日(土)～29日(日)

場 所：岩手山青少年交流の家

※岩手大学から送迎バスがでます。

参加費：1人 300円(おやつ代：当日お支払いください)

申し込み：2009年11月13日(金)まで

対 象：外国出身の小学生～高校生

※外国出身の保護者の方も参加できます。お友達だけでも大丈夫です。

定 員：10名程度

主 催：いわて多文化こども合宿実行委員会・岩手山青少年交流の家

後 援：岩手県教育委員会(予定) 岩手多文化子どもの学習支援連絡協議会

※この事業はトヨタ財団の助成をうけて実施します。

(スケジュール、申し込みについては裏面をご覧ください)



ネットワーク会議 in 福島

資料 1

日本語を学ぶネットワークフォーラム09 in FUKUSHIMA

東北のこの町でグローバル化が急速に進み、様々な文化・外国語教育が日本で生活するために必要となる日本語の環境づくりのための活動が行われています。

この会議では、東北各地を中心としたその活動を代表する方々お互いの経験と共有し、ネットワークを作り上げたい。

日 時：平成 21 年 11 月 21 日（土）10 時～16 時

会 場：福島大学1講義棟（福島市金谷川1番地）

対 象：日本語ボランティア、教育関係者、その他関心のある方

参加費無料

10:10～11:40 基調講演
「外国にルーツを持つ子どもたちを取り巻く現状と課題」
講師：佐藤節美さん（東京学芸大学国際教育センター教授）

11:40～12:00 朝食
「福島県における外国出身児童生徒の現状」と「福島市内の日本語教室の現状と課題」
昼食（12:15～12:45）と二演題「日本語ボランティア向け在留資格申請の手続き」（午後からは質疑応答に行われます。参加は自由です。）

13:00～15:00 分科会

分科会A 「日本国難民法における学習者と滞在調整コーディネーター」 <司会> 内田由典子さん（山形大専） <議題> 細越恵子さん （ニイガタヤベカ） 岡本祐子さん （財）武蔵野国際交流協会） <内容> 日本語教室には学習者と活動者（支援者＝コーディネーター）がそれぞれいるのが当たり前になっています。両者の立場の違いが学習者と支援者の相互理解のために影響を与えています。我々の日々の活動に見えてきた経験を皆さんと共有・交換するための役割をどう果たしていくべきです。 この分科会で日本語教室運営者として働くみなさんと共に、問題の両面と意見交換を行います <キーワード> 学習者のニーズ、支援者の人材確保とのマッチング、支援時のスキルアップと機会	分科会B 「外国にルーツを持つ子どもたちの学習環境と学校教育」 <司会> 市原智紀さん（宮城教育大専） <議題> 三瓶 隆光さん （東京都教育委員会幼児保健学校課） 田所孝志さん （青森市の子ども・レポートの会） <内容> 従来の枠を超えた帰国子女の増加や、伸びゆく母国の高度化など、外国にルーツを持つ子どもの学校への適応とその問題はますます多岐にわたるものになっていきます。この分科会では、実習生・通学生ともに外国人の子供を持つご家庭の方と、それらをサポートする行政の担当者との直接な交流により、学校教育への日本語支援について考えたいです。 <キーワード> 外国人の子ども達の現状と課題、学校文化とサポートの役割、教育行政のイタクタブ	分科会C 「日本語教室と地域コミュニティ」 <司会> 富田裕子さん（神奈川大専） <議題> 西原昭平さん （国際交流の会・からみあ） 北村静江さん （ひろい日本語学習会） <内容> 多様な背景を持つ住居者たちは、地域社会の中で生活するにあたり、どのような支えが必要としているのか、また受け入れられれば地域の活性化にも貢献を期待しています。この分科会では「地域社会とのつながり」を目指して活動している、そしてこれから活動しようとする「日本語教室」が果たした役割について意見交換を行います。 <キーワード> 多文化共生、地域住民との交流、学校の役割
---	--	--

15:15～ 交流会

司会・紹介 佐藤節美さん（東京学芸大学国際教育センター教授）